

農業

平成26年3月号
会誌 No. 1583



目次

巻頭言

フードディフェンス……………大澤 貫寿 3

論壇

食料・農業植物遺伝資源条約（ITPGRFA）への加入を機に思うこと
……………岩元 睦夫 4

先進農業者懇談会

水田農業における低コスト生産の展開（I）…………… 6
－平成25年度先進農業者を囲む懇談会から－
大規模稲作経営の展開……………横田 修一 7
わが水田農業の営みと今後の取り組み……………佐藤 彰一 15

農業関係予算情報

平成26年度農業関係予算の概要……………編集部 22

研究の最前線

水田農業の低コスト化に向けた水稲品種育成の取り組み……………石井 卓朗 32
多収性品種の育成
直播栽培適性品種の育成
病害虫抵抗性品種の育成

作期分散を可能とする品種

農業・農村の現場から

刺身のつまから広がる6次産業化……………中嶋 直美 39

世界の農業は今

アフリカ稲作の現況……………池田 良一 45

東京農業大学収穫祭から (Ⅲ)

農産物の鮮度保持技術について……………農産プロセス工学研究室 51

青年農業者の声

石川県の農業を盛り上げていくため……………宮野 義隆 56

統計情報

平成25年度産大豆, 小豆, いんげん及びらっかせい (乾燥子実) の収穫量 61

農政情報

大日本農会だより…………… 63

編集部から…………… 64

表紙写真説明

阿蘇の野焼き (熊本県阿蘇郡南阿蘇村)

阿蘇地域は、2013年5月に、草原を活用した伝統的な農業、美しい草原・農村景観の維持、農耕祭事が息づく伝統文化などが評価されて世界農業遺産に認定された。阿蘇山は、九州のほぼ中央に位置し、世界最大級のカルデラを囲む外輪山の一周は約128kmに及ぶ(東京都の山手線一周34.5kmの3倍以上)。毎年ほぼ春先に各牧野組合が行う「野焼き」は、千年の歴史ある大草原を維持し、野焼き後に生える柔らかい牧草は放牧されている阿蘇あか牛の餌となり、採草も行われている。また、こうして維持される自然は、ススキの巨大化、ノイバラやサルトリイバラなどの低木の繁茂に始まる森林への遷移を防ぎ、絶滅危惧種を含む多様な動植物の宝庫となっている。野焼きを支援する全国最大級のボランティア団体である「阿蘇グリーンストック」には地元熊本県をはじめ九州など各地から人々が参加している。

(写真提供・説明：澤田 清氏)